

柏久保城(愛宕山城, 柏窪城, 城山) (伊豆市柏久保字城山) (本丸跡には愛宕神社)

①戦国の火蓋を切った早雲 VS 伊豆の有力武士狩野道一

修善寺駅の南東、標高 180m の愛宕山山頂に柏久保城跡はあります。伊勢新九郎盛時（北条早雲）の本拠である菰山城と、狩野氏の本拠「狩野城」のちょうど中間に位置。築城年は不明ですが、もともとは伊豆の有力在地武士である狩野氏の出城だったと伝わっています。明応 2 年（1493）堀越公方（足利茶々丸）を倒し伊豆に侵攻してきた早雲が、その勢いで柏久保城を略奪（明応 6 年＝1497）。堀越公方に従っていた狩野道一（かのどういつ）は当然、早雲に激しく抵抗します。が、江梨の鈴木氏、土肥の富永氏、雲見の高橋氏、大見の佐藤氏など伊豆の在地武士たちが次々と早雲の幕下につきまします。しかし狩野氏の勢力は強大で、その後も早雲は狩野氏や関戸氏（深根城）の抵抗に備え、城に手を入れたと考えられています。登城するには、柏久保の高台にある「修善寺グラウンド・修善寺体育館」を目指します。体育館西側には天桂寺があり、その先の一宮神社の脇が登城ルートの入口。天桂寺の墓地を回り込むように進み山頂まで約 20 分の道のりです。道自体は安全に行けるよう木杭などで整備されていますが幅は狭く、樹木が左右の視界を遮っているのでもっと不安・・・と思っていると、杉の根元に道標が。『右 伊東街道へ 三百五十米』とあります。右への道は天桂寺の東側へ続くようです。ここでちょうど半分くらい。さて、ここからさらに登ります。とにかく“山城”ですから、滑りにくい靴で臨んでください。

②行く手を阻む空堀は後北条流

道標があった分岐点から 10 分弱、目の前に西側の防御“空堀”の出現です！ 尾根をザックリと断ち切った、見事な堀切。南北に急峻に落ち込んでおり、見上げると主曲輪はかなりの高さです。この堀のすぐ上は曲輪らしき削平地となっており、大木の根がせり出ていて迫力を感じます。その南側にも腰曲輪のような削平地があり、堀の敵への掃射、さらにはこの曲輪自体に敵を誘いこみ主曲輪から狙い撃ち、という図式がイメージできます。伊豆半島の在地武士の城の多くは懸崖な自然の地形を巧みに利用した構造で、堀切や土塁を多用する城はあまり見られないそうです。このことから、現在の柏久保城の姿は早雲が狩野氏から奪った後の遺構、と考えられているようです。空堀を渡って回り込むと、高札のような説明板。このあたりが虎口と考えられています。ここに来るまでもそうでしたが、木杭や案内板は自然の景観になじみやすいデザインで好感がもてます。鬱蒼とした山道からやっと視界が開け、振り向くと狩野川越しの堂々たる富士山の姿！ 息を切らせて登ってきた甲斐があります。虎口から主曲輪に上がると祠が祀られており、土塁上には「北条早雲城砦址」と刻まれた石碑が建っています。

③狩野軍の侵攻に的を絞った土塁

石碑のある西端から続く土塁を目で追っていくとずっと奥へと続いており、何やらちょっと変わった様相。城の南側を縁取るように、土塁がしっかりとめぐっています。南側の土塁・・・まさしくこれは狩野城の方角。狩野軍の攻撃に備えた防御であることが明らかです。奪還を期して攻め上がる狩野道一、迎え撃つ早雲！ その壮絶な戦いが、後に“地獄沢”という地名で残り語り継がれてきました。主曲輪の東側は一段低くなっており、二の曲輪とされています。南側の土塁に対し、北側はかなり急峻な崖。樹木が茂っているので、どこまで落ち込んでいるのか確認ができませんが、この急斜面を登ることなどとても考えられません。なるほど、北側には土塁が必要ないわけです。と普通なら考えるところなのですが、早雲は違いました！ 柏久保城の狩野軍に対し、この北側の崖から奇襲をかけたのです。北方向をあまり警戒していなかった狩野軍は不意を突かれ、柏久保城を奪われてしまったと伝えられています。以来、北側の崖は“新九郎谷”と呼ばれています。

④戦国の激戦地は、富士山の隠れたビューポイント

戦国時代の「城」の縄張りは堀や土塁、高低差で曲輪という空間を区切っていることが多いのですが、柏久保城の曲輪の境界は何だかあやふやな印象。戦国黎明期の山城はもともとこんな姿だったのかもしれませんが。湾曲した三日月状の尾根山頂を、さらに細長く西から主曲輪・二の曲輪・三の曲輪と区切っていま

す。南～東の防御である三の曲輪には敵対する方向に土塁、さらに曲輪下には腰曲輪のような削平地を見ることができます。そして北側からは、蛇行する狩野川の先にこれまた素晴らしい富士山！ 柏久保城は富士山ファンも納得の、知る人ぞ知るビューポイントなのです。発掘調査が行われていないので詳細はわかりませんが、戦国時代の火蓋を切った北条早雲と伊豆の在地武士との攻防を語る上で、重要な城のひとつと言えるのではないのでしょうか。城の麓の天桂寺、その山号を『城谷山』といいます。開山した明山隣察（みょうさんりんさつ）大和尚は、なんと北条早雲の親戚にあたられるとか。早雲が堀越公方（足利政知）の菩提供養のために土地などを寄進したのが始まりと伝えられています。膨大な歴史の中ではこのような砦や山城はなかなか注目されませんが、その城の背景には多くの歴史が眠っています。

Shizuoka 城と戦国浪漫ウェブサイトによる

